

作物統計調査  
令和7年産水稻の収穫量（近畿）

近畿の令和7年産主食用米の収穫量は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで47万3,900トン（前年産に比べ3万1,900トン増加）。

【調査結果の概要】

1 近畿の令和7年産水稻の生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）ベースの収穫量（主食用（生産者ふるい上米））※は47万3,900tで、前年産に比べ3万1,900t増加となった。

※ 生産者が使用しているふるい目幅1.80mm～1.90mmベースのふるい上米

これは、作付面積（主食用）が9万3,500haで前年産に比べ2,900ha増加したことに加え、10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）が507kgで前年産に比べ19kg増加となったためである。

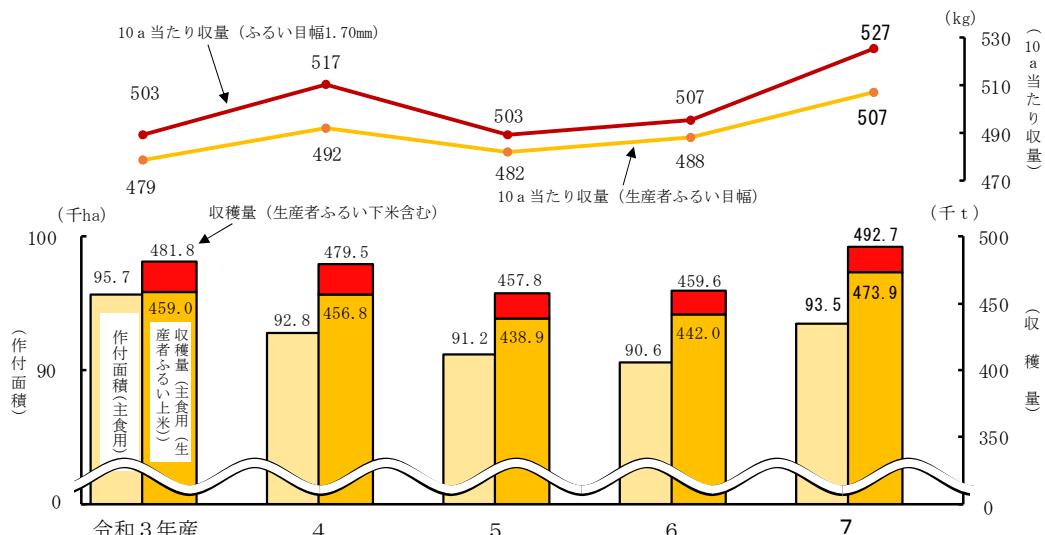
2 近畿の作況単収指数は105となった。

参考

近畿の水稻のふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は49万2,700tで前年産に比べ3万3,100t増加となった。

- 令和7年産調査から生産者の実感に合うよう、生産者が使用しているふるい目幅1.80mm～1.90mmで収穫量を公表することとし、前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、本年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

図1 水稻の作付面積（主食用）、10a当たり収量及び収穫量の推移（近畿）



- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（16ページの【参考1】参照）。
- 10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。
- 作況単収指数は、10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

## ◎ 累年データ

### 水稻の年次別推移

#### 1 近畿

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別				ふるい目幅1.70mmで選別				作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別 収穫量 (子実用)
		10a当たり 収量	対前年産比	収穫量 (主食用 (生産者ふるい 上米))	作況 単収 指数	10a当たり 収量	対前年産比	収穫量 (主食用 (生産者ふるい 下米含む))			
平成27年産	ha	kg	%	t		kg	%	t	ha	t	
	101,900	495	nc	504,300	…	508	102	517,700	105,800	537,200	
28	100,500	505	102	508,400	…	516	102	519,000	104,500	538,700	
29	99,400	498	99	494,700	…	510	99	507,000	103,200	526,600	
30	99,500	489	98	486,200	…	502	98	498,700	103,100	517,500	
令和元	99,000	491	100	486,200	…	503	100	498,000	102,600	516,400	
2	97,700	465	95	454,100	…	490	97	478,000	101,300	496,000	
3	95,700	479	103	459,000	…	503	103	481,800	99,300	499,700	
4	92,800	492	103	456,800	…	517	103	479,500	96,400	498,400	
5	91,200	482	98	438,900	…	503	97	457,800	94,700	476,100	
6	90,600	488	101	442,000	…	507	101	459,600	94,000	476,900	
7	93,500	507	104	473,900	105	527	104	492,700	96,000	505,800	

資料：農林水産省統計部『作物統計』（2～7の統計表において同じ。）

注：1 作付面積（主食用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稻等を含む。）を除いた面積である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

4 生産者が使用しているふるい目幅は、以下による。

平成27年産から令和元年産まで： 全国農業地域ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である（近畿1.80mm）。

令和2年産以降： 都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である（滋賀県1.90mm、京都府1.85mm、大阪府1.80mm、兵庫県1.85mm、奈良県1.80mm、和歌山県1.80mm）。

5 前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

6 作況単収指数は、10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

7 「nc」は計算不能、「…」は事実不詳であることを示している。

## 2 滋賀県

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別				ふるい目幅1.70mmで選別				作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別 収穫量 (子実用)
		10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	作況 単収 指数	10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))			
ha	kg	%	t			kg	%	t	ha	t	
平成27年産	30,600	504	nc	154,200	...	518	103	158,500	32,200	166,800	
28	30,200	525	104	158,600	...	534	103	161,300	31,900	170,300	
29	30,000	504	96	151,200	...	517	97	155,100	31,700	163,900	
30	30,100	501	99	150,800	...	512	99	154,100	31,700	162,300	
令和元	30,200	498	99	150,400	...	509	99	153,700	31,700	161,400	
2	29,700	475	95	141,100	...	509	100	151,200	31,100	158,300	
3	28,900	483	102	139,600	...	519	102	150,000	30,100	156,200	
4	27,700	487	101	134,900	...	523	101	144,900	29,000	151,700	
5	27,000	470	97	126,900	...	504	96	136,100	28,300	142,600	
6	27,400	484	103	132,600	...	517	103	141,700	28,400	146,800	
7	29,300	505	104	148,000	105	536	104	157,000	29,800	159,700	

## 3 京都府

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別				ふるい目幅1.70mmで選別				作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別 収穫量 (子実用)
		10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	作況 単収 指数	10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))			
ha	kg	%	t			kg	%	t	ha	t	
平成27年産	14,400	500	nc	72,000	...	510	101	73,400	15,000	76,500	
28	14,300	507	101	72,500	...	516	101	73,800	14,800	76,400	
29	14,100	501	99	70,600	...	510	99	71,900	14,700	75,000	
30	13,900	491	98	68,200	...	502	98	69,800	14,500	72,800	
令和元	13,800	495	101	68,300	...	505	101	69,700	14,400	72,700	
2	13,800	484	98	66,800	...	501	99	69,100	14,300	71,600	
3	13,600	486	100	66,100	...	504	101	68,500	14,200	71,600	
4	13,400	497	102	66,600	...	514	102	68,900	14,000	72,000	
5	13,200	489	98	64,500	...	502	98	66,300	13,800	69,300	
6	13,000	512	105	66,600	...	527	105	68,500	13,600	71,700	
7	13,200	520	102	68,600	106	536	102	70,800	13,600	72,900	

## 4 大阪府

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別				ふるい目幅1.70mmで選別				作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別 収穫量 (子実用)
		10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	作況 単収 指数	10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))			
ha	kg	%	t			kg	%	t	ha	t	
平成27年産	5,440	477	nc	25,900	...	495	100	26,900	5,440	26,900	
28	5,310	491	103	26,100	...	505	102	26,800	5,310	26,800	
29	5,150	490	100	25,200	...	506	100	26,100	5,150	26,100	
30	5,000	475	97	23,800	...	494	98	24,700	5,010	24,700	
令和元	4,850	485	102	23,500	...	502	102	24,300	4,850	24,300	
2	4,700	448	92	21,100	...	472	94	22,200	4,700	22,200	
3	4,620	476	106	22,000	...	490	104	22,600	4,620	22,600	
4	4,540	489	103	22,200	...	503	103	22,800	4,540	22,800	
5	4,430	489	100	21,700	...	503	100	22,300	4,440	22,300	
6	4,290	472	97	20,200	...	483	96	20,700	4,290	20,700	
7	4,100	481	102	19,700	100	491	102	20,100	4,100	20,100	

## 5 兵庫県

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別				ふるい目幅1.70mmで選別				作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別 収穫量 (子実用)
		10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	作況 単収 指数	10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))			
平成27年産	ha	kg	%	t		kg	%	t	ha	t	
	35,700	488	nc	174,200	...	501	103	178,900	37,300	186,900	
28	35,400	490	100	173,500	...	501	100	177,400	37,000	185,400	
29	35,100	489	100	171,600	...	501	100	175,900	36,600	183,400	
30	35,500	479	98	170,000	...	492	98	174,700	37,000	182,000	
令和元	35,300	484	101	170,900	...	497	101	175,400	36,800	182,900	
2	34,800	455	94	158,300	...	477	96	166,000	36,500	174,100	
3	34,100	468	103	159,600	...	491	103	167,400	35,800	175,800	
4	32,800	487	104	159,700	...	513	104	168,300	34,500	177,000	
5	32,500	478	98	155,400	...	497	97	161,500	34,200	170,000	
6	32,200	475	99	153,000	...	491	99	158,100	34,000	166,900	
7	33,600	498	105	167,300	105	516	105	173,400	35,200	181,600	

## 6 奈良県

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別				ふるい目幅1.70mmで選別				作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別 収穫量 (子実用)
		10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	作況 単収 指数	10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))			
平成27年産	ha	kg	%	t		kg	%	t	ha	t	
	8,850	501	nc	44,300	...	515	100	45,600	8,870	45,700	
28	8,680	512	102	44,400	...	525	102	45,600	8,710	45,700	
29	8,580	508	99	43,600	...	521	99	44,700	8,610	44,900	
30	8,530	499	98	42,600	...	514	99	43,800	8,580	44,100	
令和元	8,450	502	101	42,400	...	515	100	43,500	8,490	43,700	
2	8,430	462	92	38,900	...	482	94	40,600	8,480	40,900	
3	8,400	502	109	42,200	...	512	106	43,000	8,440	43,200	
4	8,350	512	102	42,800	...	522	102	43,600	8,410	43,900	
5	8,200	507	99	41,600	...	517	99	42,400	8,250	42,700	
6	7,960	517	102	41,200	...	526	102	41,900	8,000	42,100	
7	7,750	526	102	40,800	104	535	102	41,500	7,770	41,600	

## 7 和歌山県

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別				ふるい目幅1.70mmで選別				作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別 収穫量 (子実用)
		10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	作況 単収 指数	10 a 当たり 収	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))			
平成27年産	ha	kg	%	t		kg	%	t	ha	t	
	6,900	488	nc	33,700	...	499	101	34,400	6,900	34,400	
28	6,720	496	102	33,300	...	507	102	34,100	6,720	34,100	
29	6,560	496	100	32,500	...	507	100	33,300	6,560	33,300	
30	6,430	479	97	30,800	...	492	97	31,600	6,430	31,600	
令和元	6,360	482	101	30,700	...	494	100	31,400	6,360	31,400	
2	6,250	446	93	27,900	...	462	94	28,900	6,250	28,900	
3	6,100	484	109	29,500	...	497	108	30,300	6,100	30,300	
4	5,980	511	106	30,600	...	519	104	31,000	5,980	31,000	
5	5,780	498	97	28,800	...	506	97	29,200	5,780	29,200	
6	5,680	500	100	28,400	...	506	100	28,700	5,680	28,700	
7	5,600	526	105	29,500	106	534	106	29,900	5,600	29,900	

## 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a当たり収量及び収穫量（主食用）

生産者等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10 a当たり収量及び収穫量（主食用）を示すと次のとおりである。

本調査では、農産物規格規程に定める三等以上の玄米の重量を把握しており、未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行つており、その選別後の値を含んでいる。

表1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（近畿）

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
令和2年産	100.0	1.0	1.8	2.1	3.1	14.3	77.7
3	100.0	1.0	1.6	1.9	2.7	14.3	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	12.7	80.1
5	100.0	0.8	1.2	1.6	2.4	10.5	83.5
6	100.0	0.8	1.1	1.4	2.3	10.1	84.3
7	100.0	0.9	1.3	1.5	2.4	10.4	83.5
対前年差（ポイント）	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	△ 0.8

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。

2 「△」は、減少したものを示している。

表2 ふるい目幅別10 a当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（近畿）

年 産	単 位	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
令和2年産	kg	490	485	476	466	451	381
	t	478,000	473,200	464,600	454,600	439,800	371,400
3	kg	503	498	490	480	467	395
	t	481,800	477,000	469,300	460,100	447,100	378,200
4	kg	517	512	505	495	480	414
	t	479,500	475,200	468,000	458,900	445,000	384,100
5	kg	503	499	493	485	473	420
	t	457,800	454,100	448,600	441,300	430,300	382,300
6	kg	507	503	497	490	479	427
	t	459,600	455,900	450,900	444,400	433,900	387,400
7	kg	527	522	516	508	497	442
	t	492,700	488,300	482,400	474,600	464,800	413,300
	%	107	107	107	107	107	107

## 【調査結果】

### 1 近畿

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は9万3,500haで前年産に比べ2,900ha増加した。
- (2) 生産者が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は、507kg（前年産に比べ+19kg）となった。
- これを府県別にみると、滋賀県は505kg（前年産に比べ+21kg）、京都府は520kg（同+8kg）、大阪府は481kg（同+9kg）、兵庫県は498kg（同+23kg）、奈良県は526kg（同+9kg）、和歌山県は526kg（同+26kg）となった。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は47万3,900t（前年産に比べ3万1,900t増加）となつた。
- (4) 近畿の作況単収指数は105となつた。
- これを府県別にみると、滋賀県は105、京都府は106、大阪府は100、兵庫県は105、奈良県は104、和歌山県は106となつた。
- (5) 水稻作況標本（基準）筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）の玄米品位の状況は、白未熟粒5.3%、死米0.4%、胴割粒1.2%、着色粒0.2%となつた。

### 参考

ふるい目幅1.70mmベースの10a当たり収量は、527kg（前年産に比べ+20kg）となつた。また、主食用作付面積に10a当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は49万2,700t（前年産に比べ3万3,100t増加）となつた。

表3 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（近畿）

全農業地域 府県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別						
	実数 ①	前年産との比較		10a当たり 収量		収穫量 (主食用(生産者ふるい上米))		作況 単収 指数	10a当たり 収量		収穫量 (主食用(生産者ふるい下米含む))		実数 ②	前年産 との比較	実数 ③=①×②	前年産 との比較
				実数 ②	前年産 との比較	実数 ③=①×②	前年産 との比較		実数 ④	前年産 との比較	実数 ⑤=①×④	前年産 との比較				
		ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%	対差	対比
近畿	93,500	2,900	103	507	104	473,900	31,900	107	105	527	104	492,700	33,100	107		
滋賀	29,300	1,900	107	505	104	148,000	15,400	112	105	536	104	157,000	15,300	111		
京都	13,200	200	102	520	102	68,600	2,000	103	106	536	102	70,800	2,300	103		
大阪	4,100	△ 190	96	481	102	19,700	△ 500	98	100	491	102	20,100	△ 600	97		
兵庫	33,600	1,400	104	498	105	167,300	14,300	109	105	516	105	173,400	15,300	110		
奈良	7,750	△ 210	97	526	102	40,800	△ 400	99	104	535	102	41,500	△ 400	99		
和歌山	5,600	△ 80	99	526	105	29,500	1,100	104	106	534	106	29,900	1,200	104		

注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量については、府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

4 近畿の収穫量（主食用（生産者ふるい上米））及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））については府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

5 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

6 「△」は、負数または減少したものを示している（以下同じ。）。

表4 令和7年産水稻の作付面積（子実用）及び収穫量（近畿）

全 農業地 域 ・ 府 県	作付面積（子実用）			ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり収量		収穫量（子実用）			
		対 差	対 比	実 数 ②	前年産 との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較 対 差	t	%
	ha	ha	%	kg	%	t	t	t	%
近畿	96,000	2,000	102	527	104	505,800	28,900	106	
滋賀	29,800	1,400	105	536	104	159,700	12,900	109	
京都	13,600	0	100	536	102	72,900	1,200	102	
大阪	4,100	△ 190	96	491	102	20,100	△ 600	97	
兵庫	35,200	1,200	104	516	105	181,600	14,700	109	
奈良	7,770	△ 230	97	535	102	41,600	△ 500	99	
和歌山	5,600	△ 80	99	534	106	29,900	1,200	104	

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稻等を含む。）を除いた面積である。

2 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目で選別された玄米の重量である。

3 近畿の収穫量（子実用）については、府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

図2 府県・作柄表示地帯別 10a当たり収量  
(生産者が使用しているふるい目幅ベース)

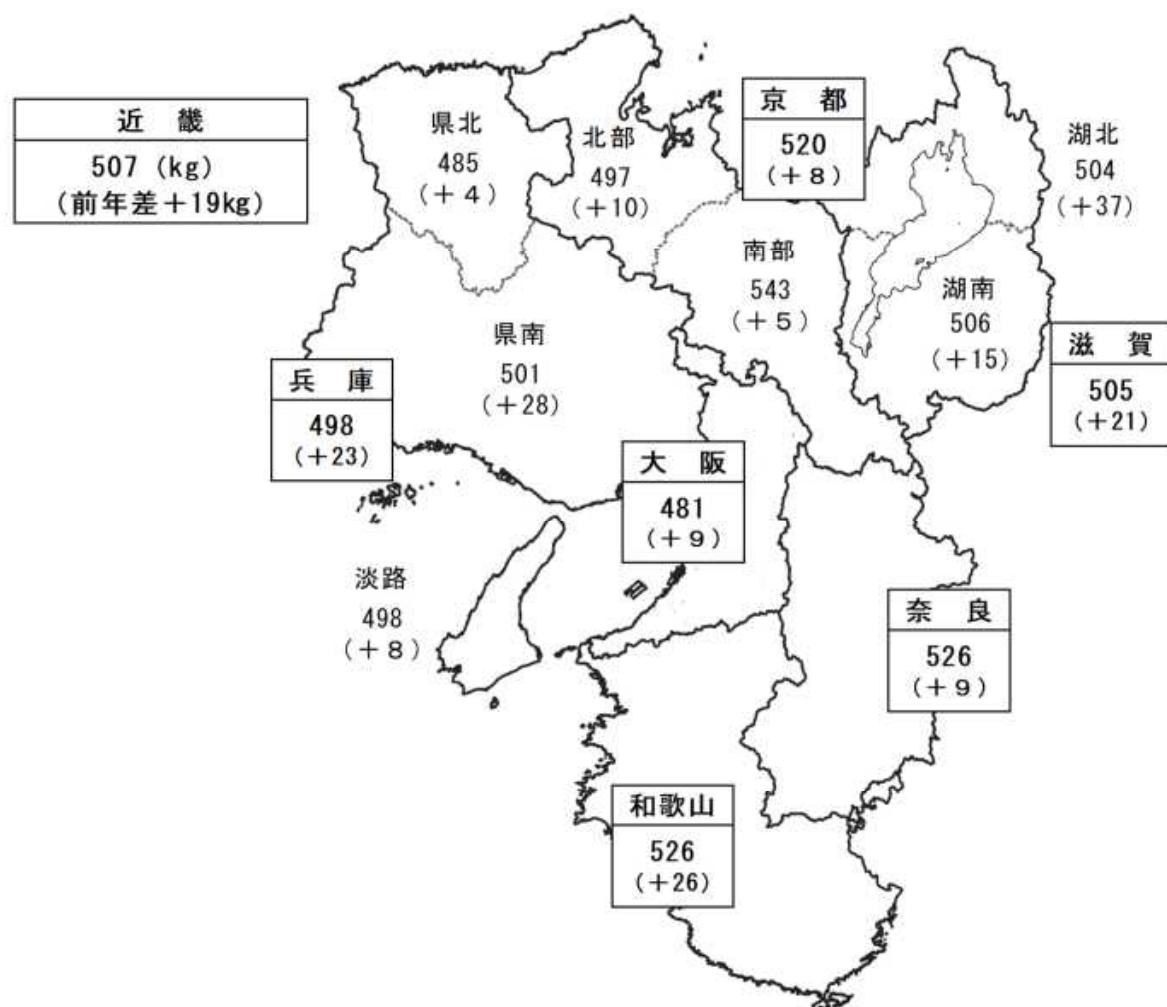


表5 令和7年産ふるい目幅別重量分布状況（近畿）

単位：%

全 国 農業地域 府 績	区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
近 畿	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.5	2.4	10.4	83.5
	前年値	100.0	0.8	1.1	1.4	2.3	10.1	84.3
	対前年差（ポイント）	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	△ 0.8
滋 賀	重量割合	100.0	1.2	1.4	1.7	2.8	12.1	80.8
	前年値	100.0	0.9	1.3	1.6	2.6	11.4	82.2
	対前年差（ポイント）	0.0	0.3	0.1	0.1	0.2	0.7	△ 1.4
京 都	重量割合	100.0	0.7	1.0	1.3	1.9	8.8	86.3
	前年値	100.0	0.6	0.9	1.3	2.1	8.8	86.3
	対前年差（ポイント）	0.0	0.1	0.1	0.0	△ 0.2	0.0	0.0
大 阪	重量割合	100.0	0.7	1.3	2.0	3.4	14.7	77.9
	前年値	100.0	0.8	1.4	2.2	3.8	17.7	74.1
	対前年差（ポイント）	0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.4	△ 3.0	3.8
兵 庫	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.3	2.2	9.4	85.1
	前年値	100.0	0.9	1.1	1.3	2.1	9.3	85.3
	対前年差（ポイント）	0.0	△ 0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	△ 0.2
奈 良	重量割合	100.0	0.7	1.1	1.7	2.4	9.7	84.4
	前年値	100.0	0.7	1.1	1.6	2.6	9.7	84.3
	対前年差（ポイント）	0.0	0.0	0.0	0.1	△ 0.2	0.0	0.1
和 歌 山	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.5	2.2	9.0	85.4
	前年値	100.0	0.5	0.7	0.8	1.7	6.7	89.6
	対前年差（ポイント）	0.0	0.3	0.4	0.7	0.5	2.3	△ 4.2

注： ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。

表6 令和7年産ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（主食用）（近畿）

全 国 農業地域 府 績	区 分	単位	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
近 畿	10a当たり収量	kg	527	522	516	508	497	442
	収穫量（主食用）	t	492,700	488,300	482,400	474,600	464,800	413,300
滋 賀	10a当たり収量	kg	536	530	522	512	505	439
	収穫量（主食用）	t	157,000	155,100	152,900	150,200	148,000	128,600
京 都	10a当たり収量	kg	536	532	526	520	509	462
	収穫量（主食用）	t	70,800	70,300	69,600	68,600	67,200	61,000
大 阪	10a当たり収量	kg	491	488	481	471	454	383
	収穫量（主食用）	t	20,100	20,000	19,700	19,300	18,600	15,700
兵 庫	10a当たり収量	kg	516	512	505	498	487	439
	収穫量（主食用）	t	173,400	172,000	169,900	167,300	163,500	147,200
奈 良	10a当たり収量	kg	535	532	526	517	505	453
	収穫量（主食用）	t	41,500	41,200	40,800	40,100	39,100	35,100
和 歌 山	10a当たり収量	kg	534	530	526	520	507	459
	収穫量（主食用）	t	29,900	29,700	29,500	29,100	28,400	25,700

表7 令和7年産水稻の玄米品位の状況（近畿）

単位：%

区 分	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒
重量割合	5.3	0.4	1.2	0.2

注： 1 水稻作況標本筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を、筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したものであり、調製のうえ販売される玄米の品位とは異なる。

2 白未熟粒は白色不透明な部分の大きさが粒平面の1/2以上のものである粒、死米は粉状質で光沢がないものが2/3以上を占める粒、胴割粒は粒平面に横一条の亀裂がすつきり通っている粒、着色粒は着色部分の大きさが直径1mm以上かつ粒表面の2/3以下のものである粒をいう。

図3 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の分布状況（近畿）  
(生産者が使用しているふるい目幅ベース)

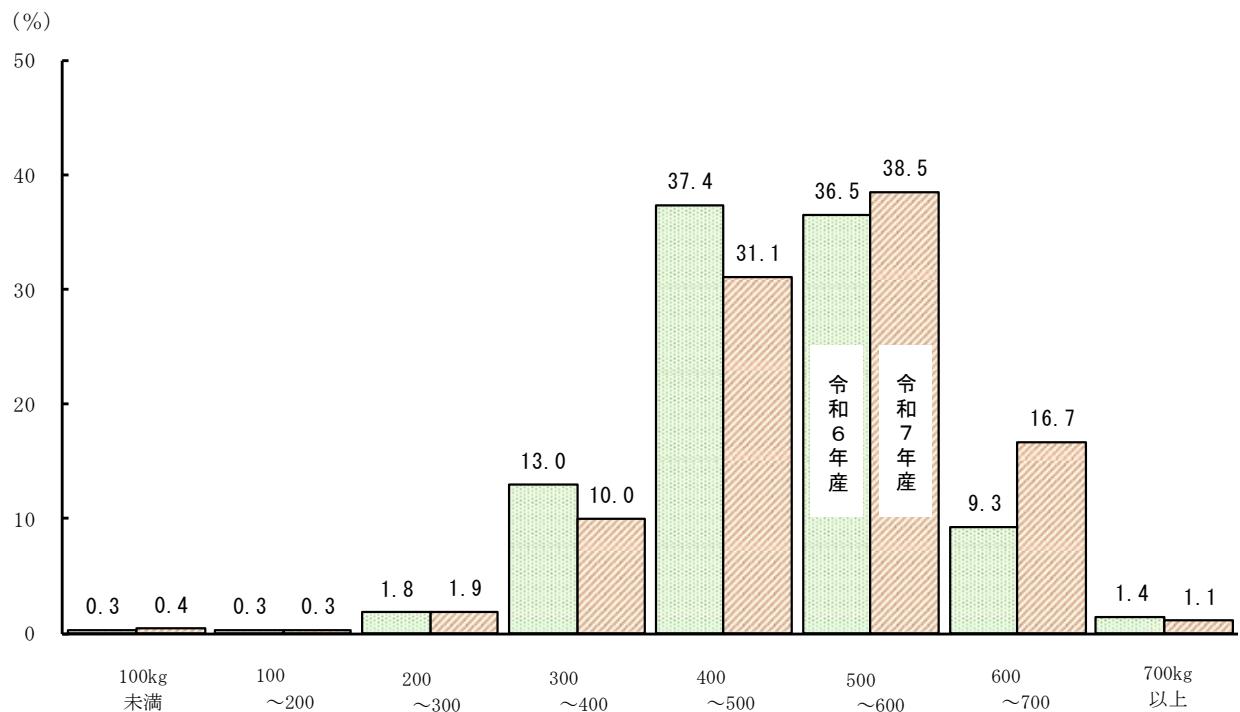
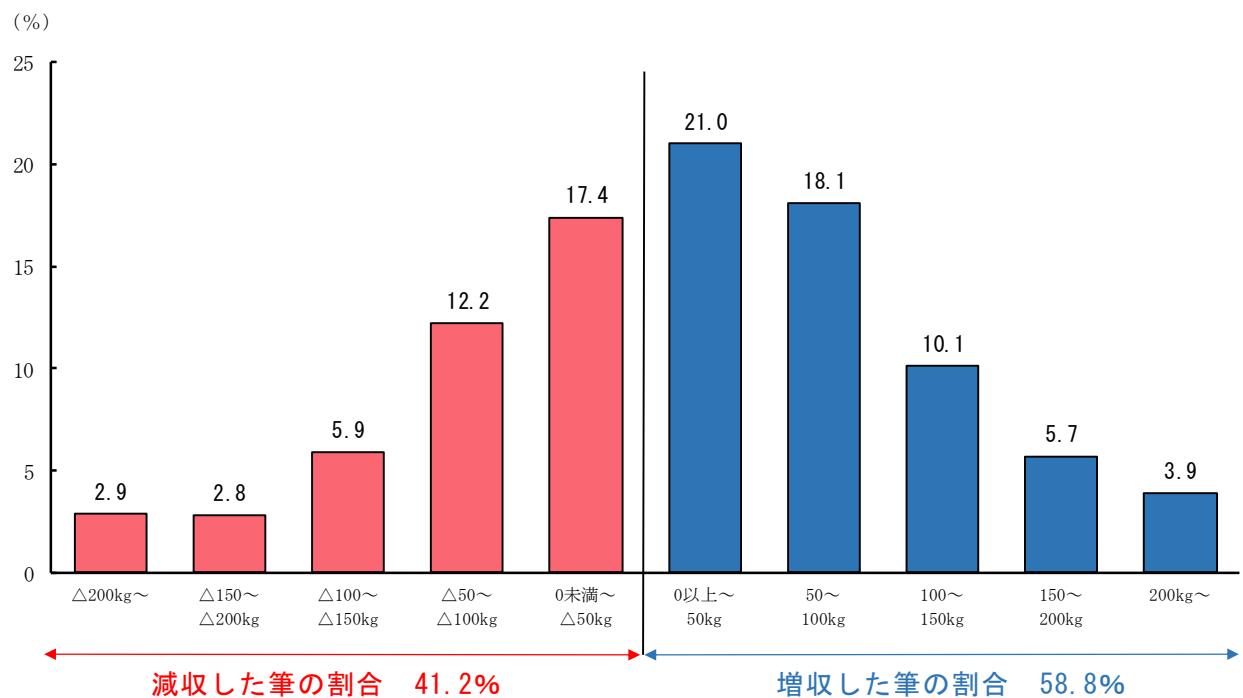


図4 令和7年産水稻作況標本筆の10a当たり収量の前年差の分布状況（近畿）  
(生産者が使用しているふるい目幅ベース)



## 2 滋賀県

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は2万9,300ha（前年産に比べ1,900ha増加）となった。
- (2) 生産者が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は505kg（前年産に比べ+21kg）となった。これは、全もみ数が、天候に恵まれ前年に比べ「多い」となったこと、千もみ当たり収量（登熟）が、出穂・開花期の高温により前年同様不稔もみの発生がみられたことやもみ数が多くなったことに伴う相反作用等で前年に比べ「やや少ない」となったこと等による。
- また、作柄表示地帯別の10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、湖南506kg（前年産に比べ+15kg）、湖北504kg（同+37kg）となった。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は14万8,000t（前年産に比べ1万5,400t増加）となった。
- (4) 滋賀県の作況単収指数は105となった。また、作柄表示地帯別の作況単収指数は湖南が103、湖北が109となった。

### 参考

ふるい目幅1.70mmベースの10a当たり収量は536kg（前年産に比べ+19kg）となった。作柄表示地帯別の10a当たり収量（同）は、湖南が538kg（前年産に比べ+14kg）、湖北が532kg（同+31kg）となった。また、主食用作付面積に10a当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は15万7,000t（前年産に比べ1万5,300t増加）となった。

表8 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（滋賀県）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))					
				実 数 ②	前年産と の比較	実 数 ③=①×②	前年産との比較	実 数 ④	前年産と の比較	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較				
		対 差	対 比	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%	kg	%
滋 賀		29,300	1,900	107	505	104	148,000	15,400	112	536	104	157,000	15,300	111	

表9 令和7年産水稻の作付面積（子実用）、10a当たり収量及び主な収量構成要素の前年比較（滋賀県・作柄表示地帯別）

府 県 作 柄 表 示 地 帯	生産者が使用している ふるい目幅で選別			作付面積（子実用）			ふるい目幅1.70mmで選別						主な収量構成要素 (前年比較)	
							10a当たり収量		収穫量（子実用）					
	10a当たり 収量 (1.90mm)	前年産と の比較	作況 単収 指數	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産と の比較	実 数 ③=①×②	前年産との比較		全もみ数 の多少	千もみ当たり 収量の多少	
					kg	%	ha	ha	%	kg	%	t	t	%
滋 賀	505	104	105	29,800	1,400	105	536	104	159,700	12,900	109	多い	やや少ない	
湖 南	506	103	103	19,900	600	103	538	103	107,100	6,000	106	多い	やや少ない	
湖 北	504	108	109	9,890	770	108	532	106	52,600	6,900	115	多い	やや少ない	

注： 主な収量構成要素の前年比較区分は、「多い」が対前年比106%以上、「やや多い」が105~102%、「前年並み」が101~99%、「やや少ない」が98~95%、「少ない」が94%以下に相当する（以下同じ。）。

### 3 京都府

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は1万3,200ha（前年産に比べ200ha増加）となった。
- (2) 生産者が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は520kg（前年産に比べ+8kg）となった。これは、気温・日照時間ともに前年を上回って経過し全もみ数が前年に比べ「多い」となったこと、千もみ当たり収量（登熟）が、もみ数が多くなったことに伴う相反作用等で前年に比べ「少ない」となったこと等による。
- また、作柄表示地帯別の10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、南部が543kg（前年産に比べ+5kg）、北部が497kg（同+10kg）となった。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は6万8,600t（前年産に比べ2,000t増加）となった。
- (4) 京都府の作況単収指数は106となった。また、作柄表示地帯別の作況単収指数は南部が108、北部が103となった。

#### 参考

ふるい目幅1.70mmベースの10a当たり収量は536kg（前年産に比べ+9kg）となった。作柄表示地帯別の10a当たり収量（同）は、南部が560kg（前年産に比べ+6kg）、北部が512kg（同+12kg）となった。また、主食用作付面積に10a当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は7万800t（前年産に比べ2,300t増加）となった。

表10 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（京都府）

府 県	作付面積（主食用）				生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別							
	実 数 ①	前年産との比較			10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))		実 数 ④	前年産との比較 ⑤=①×④	前年産との比較			
		実 数 ②	前年産との比較		実 数 ③=①×②	前年産との比較		対 比	対 比	対 比	対 比	対 比			対 比	対 比		
			対 差	対 比		対 差	対 比											
京 都		ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%	ha	ha	%	
京 都		13,200	200	102	520	102	68,600	2,000	103	536	102	70,800	2,300	103				

表11 令和7年産水稻の作付面積（子実用）、10a当たり収量及び主な収量構成要素の前年比較（京都府・作柄表示地帯別）

府 県 作 柄 表 示 地 带	生産者が使用している ふるい目幅で選別			作付面積（子実用）				ふるい目幅1.70mmで選別						主な収量構成要素 (前年比較)				
	10a当たり 収量 (1.85mm)	前年産と の比較	作況 単収 指数	実 数 ①	前年産との比較			10a当たり収量		収 穫 量（子実用）		実 数 ②	前年産と の比較 ③=①×②	前年産との比較				
					対 差	対 比	対 差	対 比	対 差	対 比	対 差	対 比			対 差	対 比		
京 都	kg	%	ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%	ha	ha	%
京 都	520	102	106	13,600	0	100	536	102	72,900	1,200	102	多 い	少 な い					
南 部	543	101	108	6,780	△80	99	560	101	38,000	0	100	多 い	少 な い					
北 部	497	102	103	6,800	10	100	512	102	34,800	800	102	多 い	少 な い					

#### 4 大阪府

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は4,100ha（前年産に比べ190ha減少）となった。
- (2) 生産者が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は481kg（前年産に比べ+9kg）となった。これは、天候に恵まれ、全もみ数が「やや多い」となったこと、千もみ当たり収量（登熟）が、出穗期以降天候に恵まれたことから「やや多い」となったこと等による。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は1万9,700t（前年産に比べ500t減少）となった。
- (4) 大阪府の作況単収指数は100となった。

#### 参考

ふるい目幅1.70mmベースの10a当たり収量は491kg（前年産に比べ+8kg）となった。また、主食用作付面積に10a当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は2万100t（前年産に比べ600t減少）となった。

表12 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（大阪府）

府 県	作付面積（主食用）				生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別						
	実 数 ①	前年産との比較			10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))			10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))					
		実 数 ②	前年産との比較		実 数 ③=①×②	前年産との比較		実 数 ④	前年産との比較		実 数 ⑤=①×④	前年産との比較			実 数 ⑥=①×④	前年産との比較	
			対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比	対 差	対 比		
大 阪		ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%			
	4,100	△190	96		481	102	19,700	△500	98	491	102	20,100	△600	97			

表13 令和7年産水稻の作付面積（子実用）、10a当たり収量及び主な収量構成要素の前年比較（大阪府）

府 県	生産者が使用しているふるい目幅で選別			作付面積（子実用）			ふるい目幅1.70mmで選別						主な収量構成要素 (前年比較)			
	10a当たり 収量 (1.80mm)	前年産との 比較	作況 単収 指数	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり収量		収 穫 量（子実用）							
					対 差	対 比	実 数 ②	前年産との 比較	実 数 ③=①×②	前年産との比較		全もみ数 の多少	千もみ当たり 収量の多少			
										対 差	対 比					
大 阪		kg	%	ha	ha	%	kg	%	t	t	%				やや多い	やや多い
	481	102	100	4,100	△190	96	491	102	20,100	△600	97					

## 5 兵庫県

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は3万3,600ha（前年産に比べ1,400ha増加）となつた。
- (2) 生産者が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は498kg（前年産に比べ+23kg）となつた。これは、6月中旬以降高温・多照で経過し分けつが促進され穂数の増加等により、全もみ数が前年に比べ「多い」となつたこと、千もみ当たり収量（登熟）が、もみ数が多くなつたことに伴う相反作用等により前年に比べ「やや少ない」となつたこと等による。
- また、作柄表示地帯別の10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、県南が501kg（前年産に比べ+28kg）、県北が485kg（同+4kg）、淡路が498kg（同+8kg）となつた。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は16万7,300t（前年産に比べ1万4,300t増加）となつた。
- (4) 兵庫県の作況単収指数は105となつた。また、作柄表示地帯別の作況単収指数は県南が106、県北が103、淡路が105となつた。

### 参考

ふるい目幅1.70mmベースの10a当たり収量は516kg（前年産に比べ+25kg）となつた。作柄表示地帯別の10a当たり収量（同）は、県南が518kg（前年産に比べ+29kg）、県北が501kg（同+7kg）、淡路が525kg（同+11kg）となつた。また、主食用作付面積に10a当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は17万3,400t（前年産に比べ1万5,300t増加）となつた。

表14 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（兵庫県）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))		実 数 ④	前年産との比較 ⑤=①×④	前年産との比較	
				実 数 ②	前年産との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較 対 比								
		対 差	対 比				対 差	対 比	対 差	対 比	対 差			対 比	
兵 庫		ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%	
兵 庫		33,600	1,400	104	498	105	167,300	14,300	109	516	105	173,400	15,300	110	

表15 令和7年産水稻の作付面積（子実用）、10a当たり収量及び主な収量構成要素の前年比較（兵庫県・作柄表示地帯別）

府 県 作 柄 表 示 地 帯	生産者が使用している ふるい目幅で選別			作付面積（子実用）			ふるい目幅1.70mmで選別						主な収量構成要素 (前年比較)		
							10a当たり収量		収穫量（子実用）						
	10a当たり 収量 (1.85mm)	前年産との 比較	作況 単収 指数	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 ③=①×②					全もみ数 の多少	千もみ当たり 収量の多少	
					対 差	対 比		対 差	対 比	対 差	対 比				
兵 庫	kg	%	ha	ha	%	kg	%	t	t	%					
兵 庫	498	105	105	35 200	1,200	104	516	105	181 600	14,700	109	多い	やや少ない		
県 南	501	106	106	27 000	1,100	104	518	106	139 900	13,200	110	多い	やや少ない		
県 北	485	101	103	5 350	30	101	501	101	26 800	500	102	多い	少ない		
淡 路	498	102	105	2 860	120	104	525	102	15 000	900	106	やや多い	やや少ない		

## 6 奈良県

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は7,750ha（前年産に比べ210ha減少）となった。
- (2) 生産者が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は526kg（前年産に比べ+9kg）となった。これは、天候に恵まれ、全もみ数が前年に比べ「やや多い」となったこと、千もみ当たり収量（登熟）が、出穂期以降も天候に恵まれたことから「前年並み」となったこと等による。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は4万800t（前年産に比べ400t減少）となった。
- (4) 奈良県の作況単収指数は104となった。

### 参考

ふるい目幅1.70mmベースの10a当たり収量は535kg（前年産に比べ+9kg）となった。また、主食用作付面積に10a当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は4万1,500t（前年産に比べ400t減少）となった。

表16 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（奈良県）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))					
				実 数 ②	前年産と の比較	実 数 ③=①×②	前年産との比較	実 数 ④	前年産と の比較	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較				
		対 差	対 比	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比	対 差	対 比
奈 良		ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%	
		7,750	△210	97	526	102	40,800	△400	99	535	102	41,500	△400	99	

表17 令和7年産水稻の作付面積（子実用）、10a当たり収量及び主な収量構成要素の前年比較（奈良県）

府 県	生産者が使用している ふるい目幅で選別			作付面積（子実用）			ふるい目幅1.70mmで選別						主な収量構成要素 (前年比較)		
							10a当たり収量		収穫量（子実用）						
	10a当たり 収量 (1.80mm)	前年産と の比較	作況 単収 指数	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産と の比較	実 数 ③=①×②	前年産との比較		全もみ数 の多少	千もみ当たり 収量の多少		
					対 差	対 比				対 差	対 比				
奈 良		kg	%	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		やや多い	前年並み	
		526	102	104	7,770	△230	97	535	102	41,600	△500	99			

## 7 和歌山県

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は5,600ha（前年産に比べ80ha減少）となった。
- (2) 生産者が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は526kg（前年産に比べ+26kg）となった。これは、6月中旬以降、気温・日照時間ともに前年を上回って経過し、分げつが旺盛となって穂数が前年を上回り、全もみ数が、前年に比べ「多い」となったこと、千もみ当たり収量（登熟）は、全もみ数が多いことによる相反作用等から「やや少ない」となったこと等による。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は2万9,500t（前年産に比べ1,100t増加）となった。
- (4) 和歌山県の作況単収指数は106となった。

### 参考

ふるい目幅1.70mmベースの10a当たり収量は534kg（前年産に比べ+28kg）となった。また、主食用作付面積に10a当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は2万9,900t（前年産に比べ1,200t増加）となった。

表18 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（和歌山県）

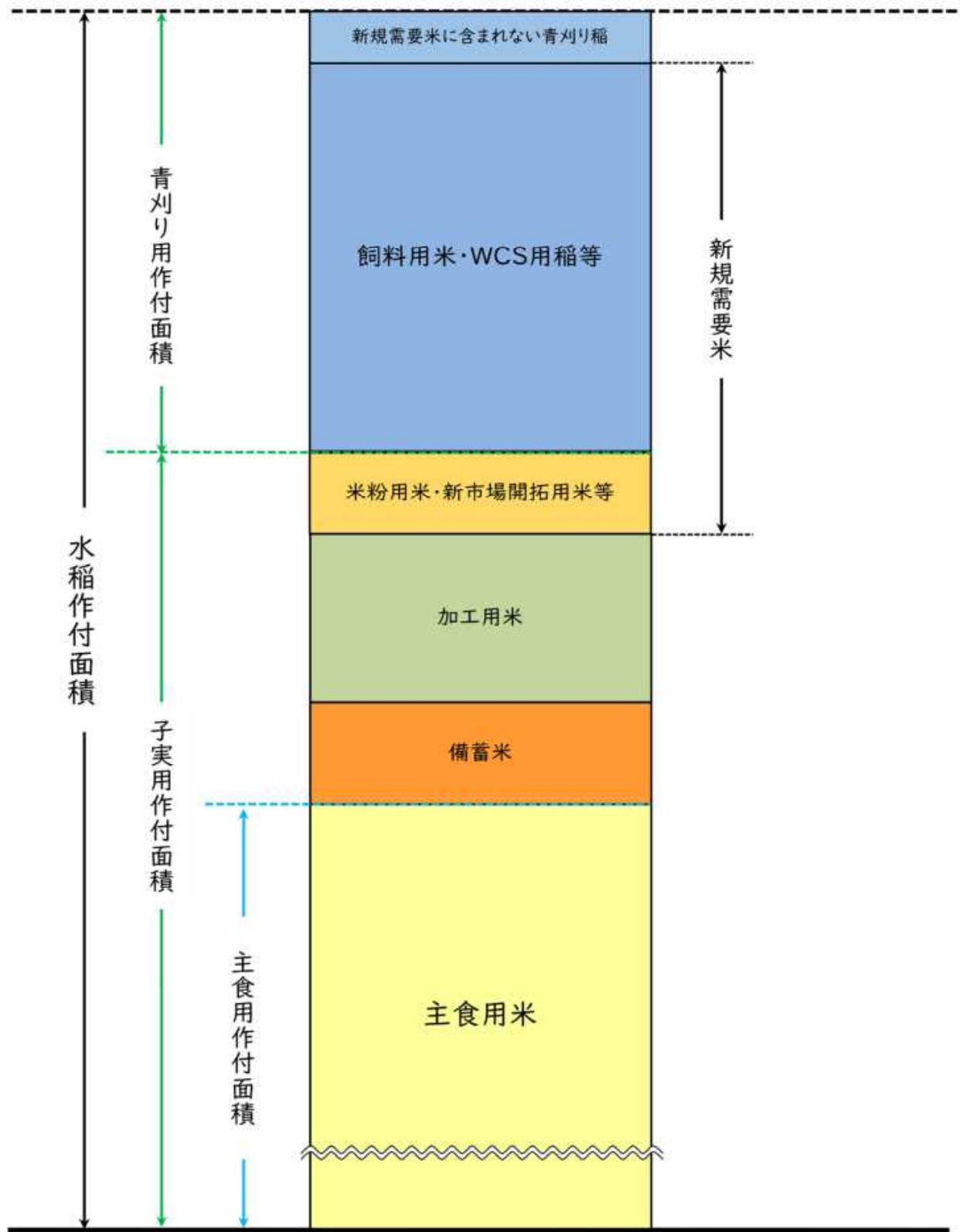
府 県	作付面積（主食用）				生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較			10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))		10a当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))					
		実 数 ②	前年産との比較		実 数 ③=①×②	前年産との比較		実 数 ④	前年産との比較		実 数 ⑤=①×④	前年産との比較				
			対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比	対 差	対 比	
和 歌 山		ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%		
		5,600	△ 80	99	526	105	29,500	1,100	104	534	106	29,900	1,200	104		

表19 令和7年産水稻の作付面積（子実用）、10a当たり収量及び主な収量構成要素の前年比較（和歌山県）

府 県	生産者が使用しているふるい目幅で選別				作付面積（子実用）				ふるい目幅1.70mmで選別						主な収量構成要素 (前年比較)			
	10a当たり収量 (1.80mm)		作況 単収 指数	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり収量		収穫量（子実用）									
	対 差	対 比			実 数 ②	前年産との比較	実 数 ③=①×②	前年産との比較	対 差	対 比								
	kg	%			ha	ha	%	t	kg	%	t	t	%			全もみ数 の多少	千もみ当たり 収量の多少	
和 歌 山	526	105	106	5,600	△ 80	99	534	106	29,900	1,200	104	多い	やや少ない					

【参考 1】

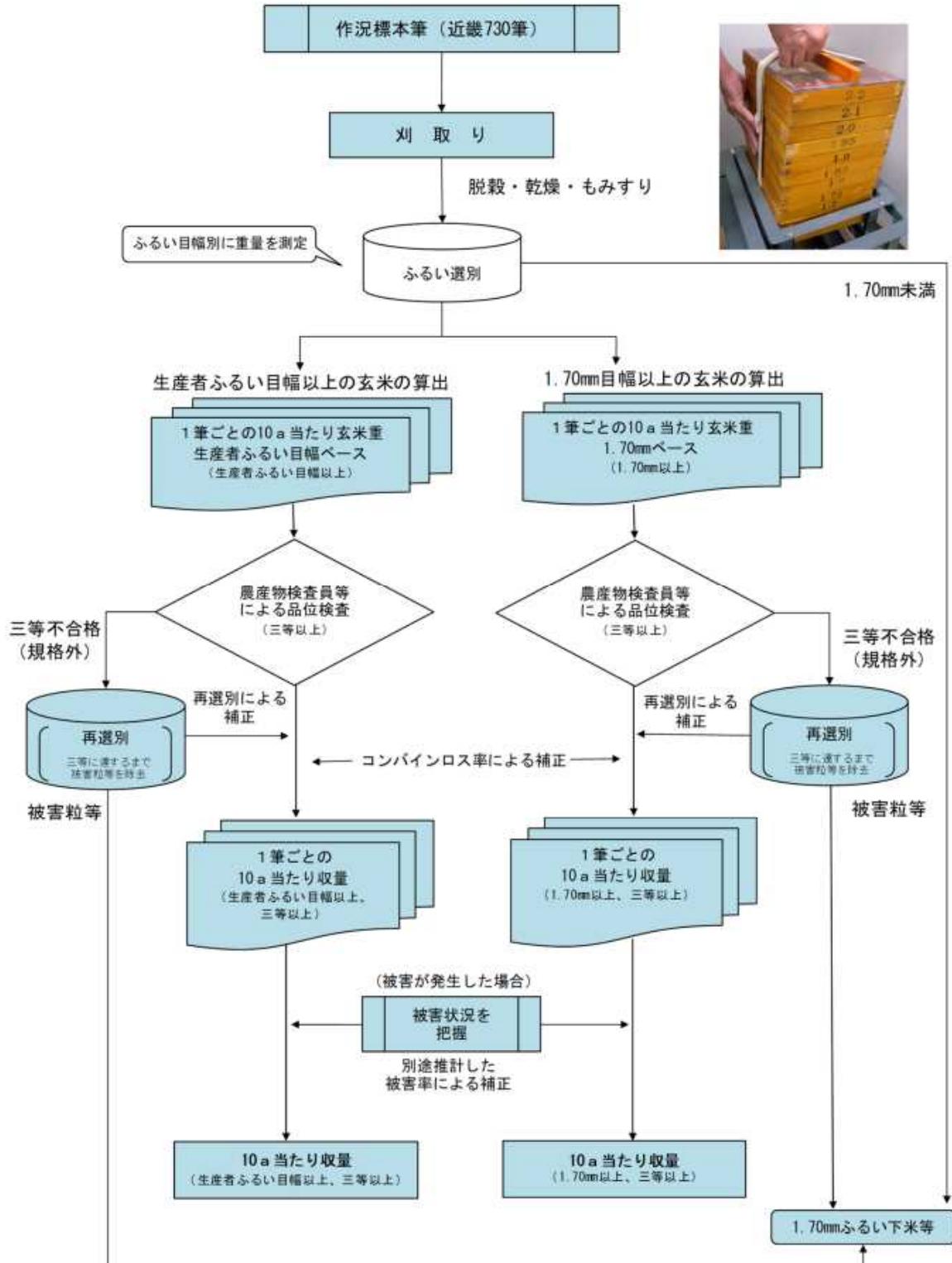
## 水稻作付面積の概念図



## 【参考2】

### 刈取り調査における10a当たり収量の算出方法

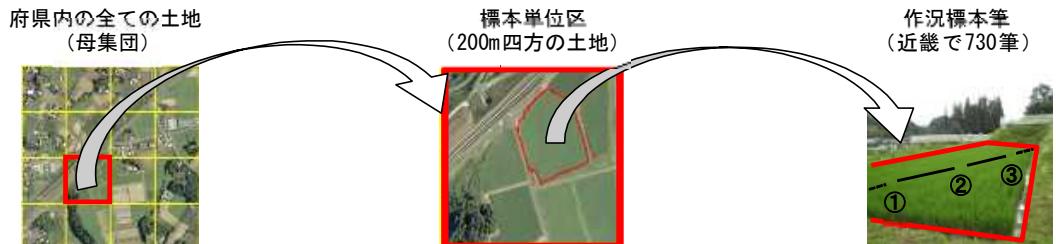
作況標本筆（【参考3】参照）ごとに一定面積の稻を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い10a当たり収量を算出している（下図参照）。



## 【参考3】

### 作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各府県の水稻の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（近畿で730筆）調査している。



1 府県ごとの全ての土地を200m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

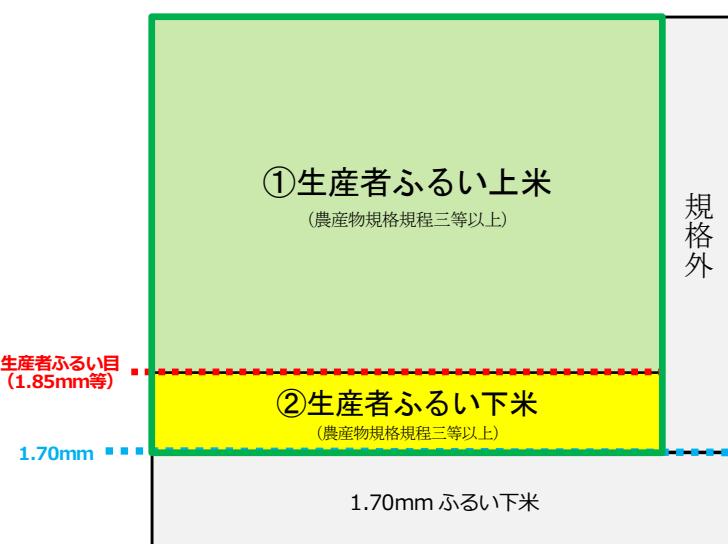
2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

3 各作況標本筆の対角線上の3ヵ所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1m<sup>2</sup>（合計3m<sup>2</sup>）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

## 【参考4】

### 水稻収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、府県ごとに最も使用されている生産者ふるい目（1.80、1.85、1.90mm）以上で農産物規格規程三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅1.70mm以上、農産物規格規程三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



## 【統計表】

[https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/d/excel/07\\_suitou\\_shukaku.xlsx](https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/d/excel/07_suitou_shukaku.xlsx)

## 【調査の概要】

- ・面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・作況調査（水陸稻、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/gaiyou/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/)

## 【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

## 【ウェブサイト掲載案内】

- ・ 本資料は、近畿農政局ウェブサイトの統計情報に掲載している統計調査結果の「農林水産統計（第1報）」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/index2.html#ippou>

- ・ 公表した数値の正誤情報は、近畿農政局ウェブサイトに掲載します。

- ・ 本調査の全国の結果は、農林水産省ウェブサイトの統計情報に掲載します。

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/#y5](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5)

## 【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省>組織別から探す>農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省>組織別から探す>消費・安全局>病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課  
電話：（代表）075-451-9161 内線2652  
(直通) 075-414-9650

近畿農政局 滋賀県拠点 統計担当  
電話：（直通）077-522-4344

近畿農政局 兵庫県拠点 統計担当  
電話：（直通）078-391-2873

近畿農政局 和歌山県拠点 統計担当  
電話：（直通）073-436-3835

◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課  
電話：（直通）075-414-9620

近畿農政局 大阪府拠点 統計担当  
電話：（直通）06-6941-9659

近畿農政局 奈良県拠点 統計担当  
電話：（直通）0742-32-1874



スマホでみる農林統計

近畿の府県別、市町村別の主要農林水産統計データをスマートフォンで簡単に閲覧！近畿農政局ウェブサイトからご利用いただけます。

ご利用はこちら→ <https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/smart.html>

